2023年3月期　第2四半期
決算補足資料

2022年11月8日

京阪ホールディングス株式会社

（ 東証プライム市場 9045　https://www.keihan-holdings.co.jp/）

2023年3月期　第2四半期

決 算 の 概 要

連結損益計算書

- 不動産業で前年同期の開発案件販売の反動があったものの、緊急事態宣言発出の影響を受けた前年同期と比べ、運輸業やレジャー・サービス業において一定の回復が見られたことなどにより、増収となり、営業利益、経常利益も増益。さらに、固定資産売却益の増加もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期を大きく上回りました。

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減要因	2023/3 8月発表2Q予想	増減
営業収益	123,143	118,564	4,579 (3.9%)		118,500	4,643 (3.9%)
営業利益	10,174	2,793	7,381 (264.2%)		7,900	2,274 (28.8%)
営業外収益	1,553	2,426	△873	雇用調整助成金△723		
営業外費用	1,188	1,492	△303			
経常利益	10,539	3,727	6,811 (182.7%)		8,000	2,539 (31.7%)
特別利益	5,137	1,748	3,388	固定資産売却益+4,571 投資有価証券売却益△1,000		
特別損失	728	466	261			
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,506	1,950	8,555 (438.6%)		8,600	1,906 (22.2%)
減価償却費	9,966	10,297	△330			
EBITDA	20,141	13,090	7,050	※EBITDA：営業利益＋減価償却費		
受取利息及び配当金	295	241	53			
支払利息	961	1,030	△69			
金融収支	△666	△789	123			

セグメント情報

（単位：百万円）

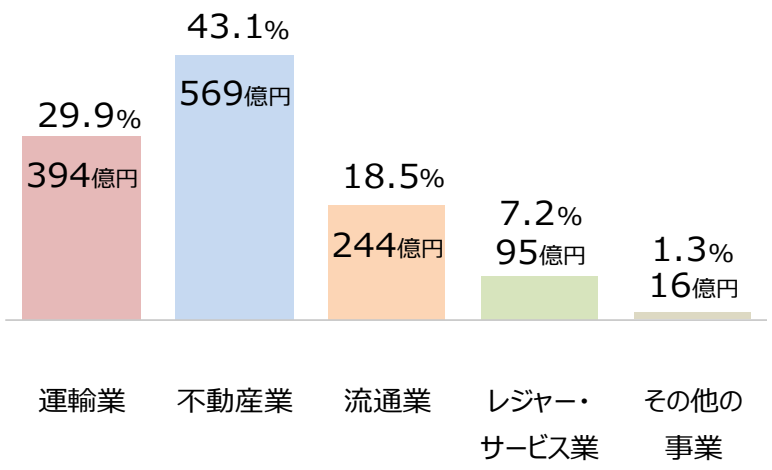
		2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
運輸業	営業収益	39,448	33,157	6,290	19.0%
	営業利益	3,452	△1,991	5,444	–
不動産業	営業収益	56,951	62,652	△5,700	△9.1%
	営業利益	9,641	10,400	△759	△7.3%
流通業	営業収益	24,446	25,893	△1,446	△5.6%
	営業利益	647	414	232	56.1%
ﾚｼﾞｬｰ・ｻｰﾋﾞｽ業	営業収益	9,509	4,194	5,315	126.7%
	営業利益	△2,734	△5,437	2,703	–
その他の事業	営業収益	1,660	1,416	243	17.2%
	営業利益	△638	△757	118	–
全社・消去	営業収益	△8,872	△8,750	△122	–
	営業利益	△193	164	△358	–

セグメント情報（構成）

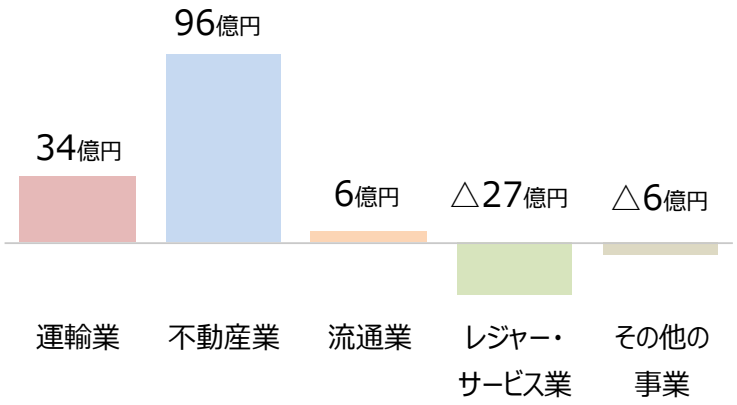
【連結対象会社】39社（対前年同期　2社減）【持分法適用会社】2社（対前年同期　増減なし）

運輸業	京阪電気鉄道、京福電気鉄道、京阪バス　他12社
不動産業	京阪ホールディングス、京阪電鉄不動産、ゼロ・コーポレーション、京阪建物　他6社
流通業	京阪百貨店、京阪ザ・ストア、京阪流通システムズ、ビオ・マーケット
レジャー・サービス業	ホテル京阪、京阪ホテルズ＆リゾーツ、琵琶湖汽船　他5社
その他の事業	ビオスタイル、京阪カード

＜セグメント別営業収益＞

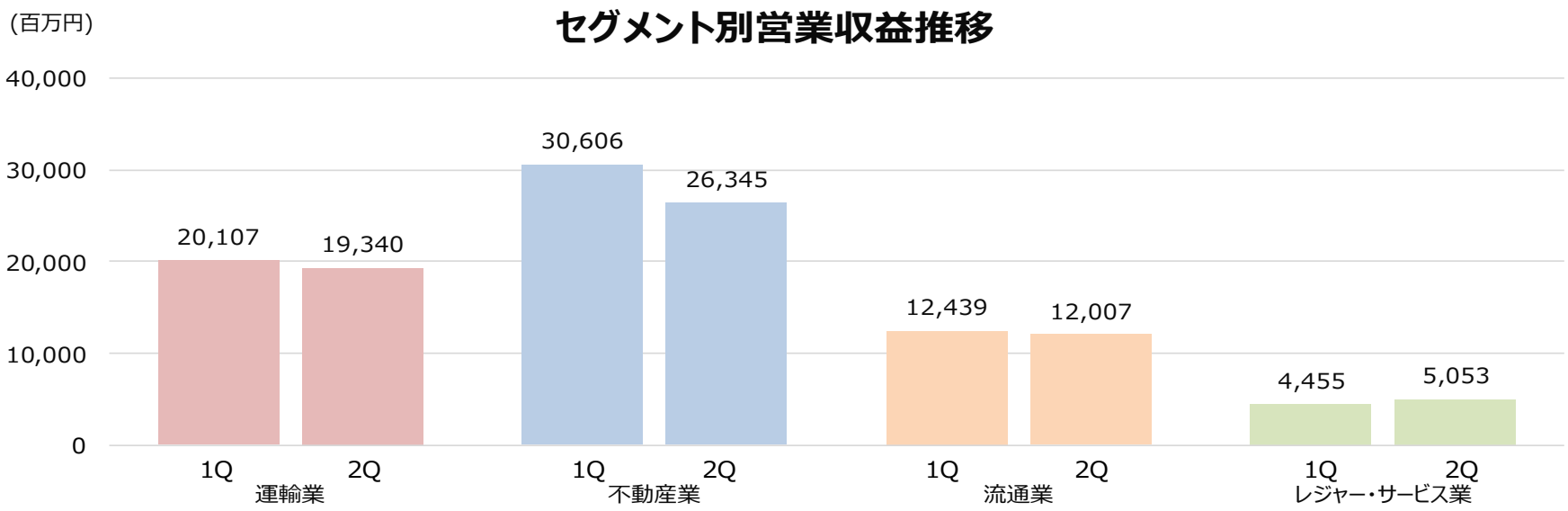


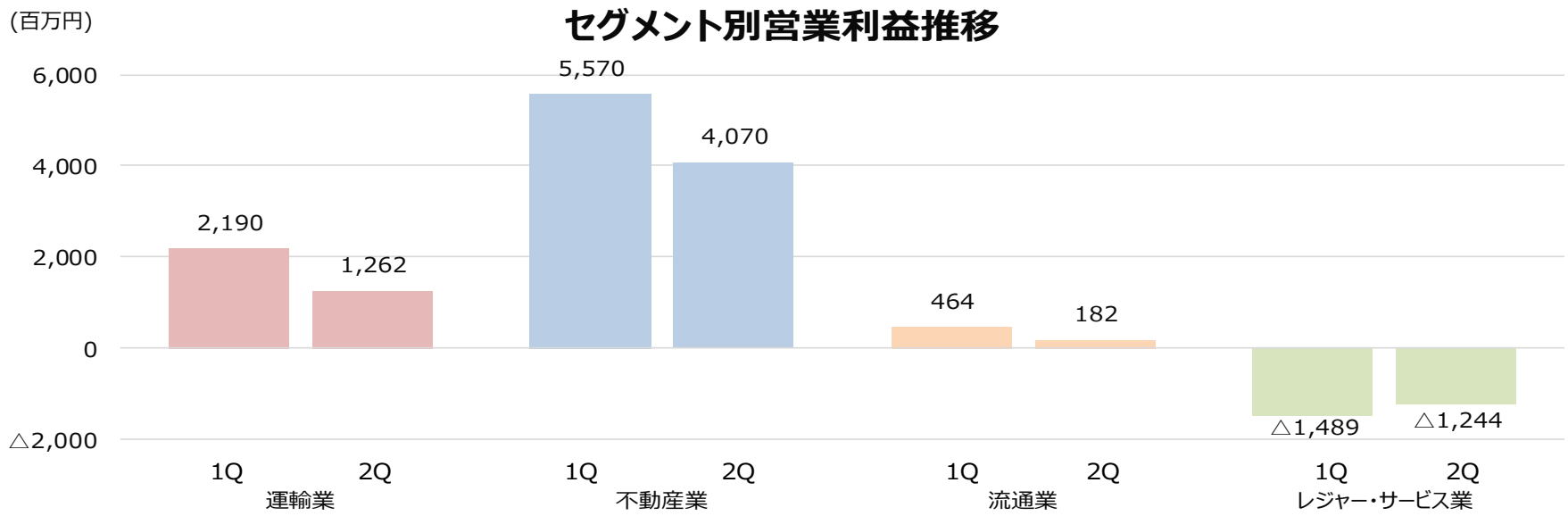
＜セグメント別営業利益＞



(注)セグメント数値は、セグメント間取引消去を含む金額であります。%は各セグメントの構成比を表しております。

セグメント情報（四半期推移）





セグメント情報（運輸業）

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	39,448	33,157	6,290	19.0%
鉄道事業	32,024	27,319	4,705	17.2%
バス事業	11,111	9,429	1,681	17.8%
消去	△3,687	△3,591	△96	–
営業利益	3,452	△1,991	5,444	–
鉄道事業	2,805	△1,358	4,164	–
バス事業	643	△634	1,277	–
消去	3	1	2	–

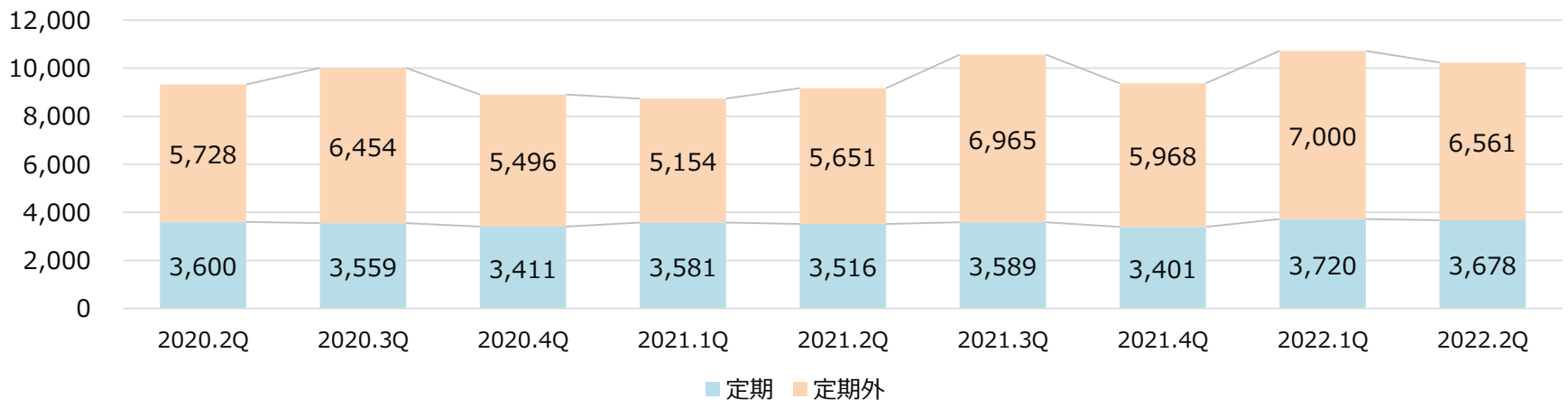
（主な増減要因）

- 鉄道事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期と比較して輸送人員が増加したことなどにより、増収・増益。
- バス事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期と比較して乗合収入が増加したことなどにより、増収・増益。

運輸成績 京阪電気鉄道

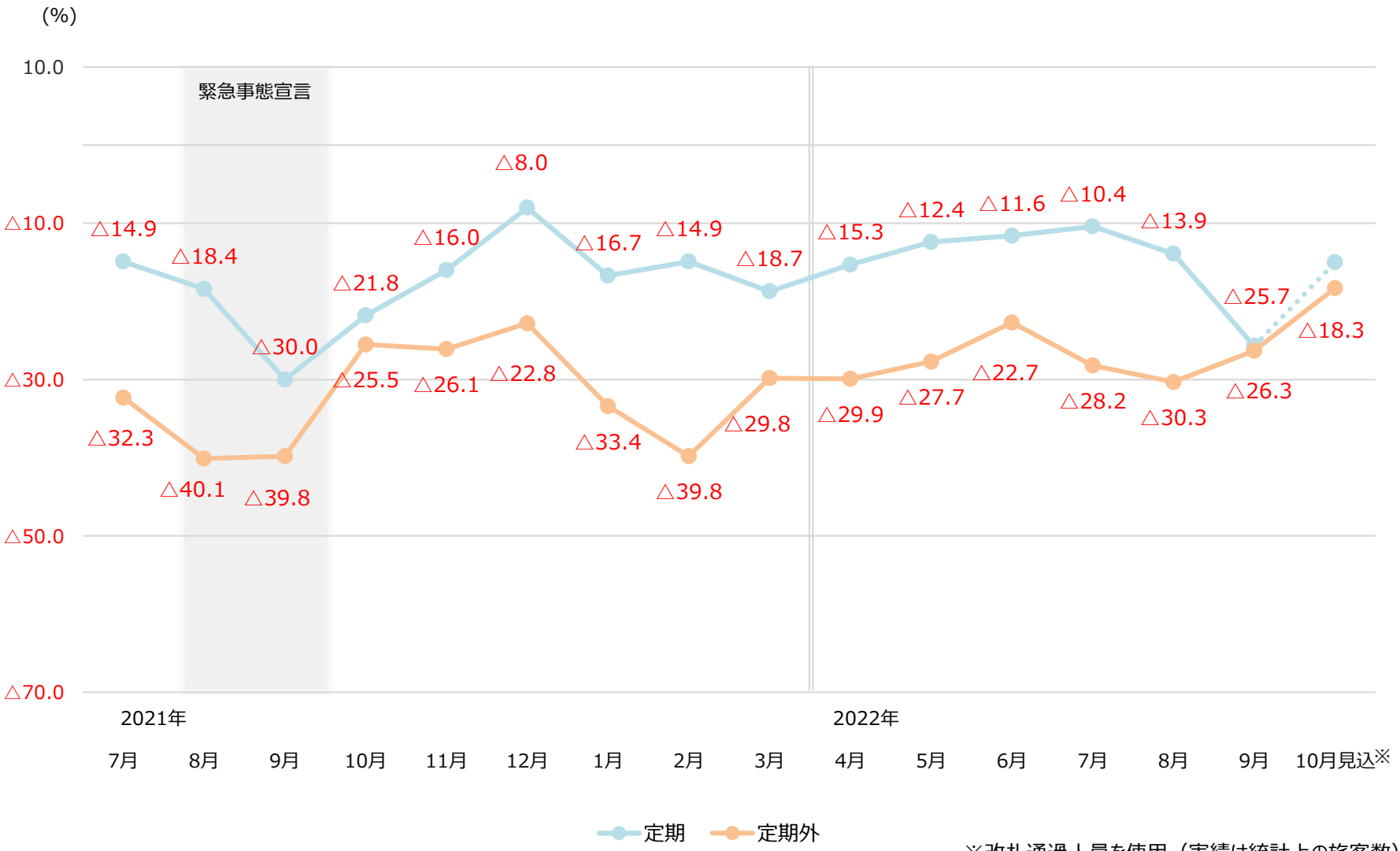
	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
旅客収入	20,960	17,903	3,057	17.1
定期外	13,561	10,805	2,756	25.5
定期	7,398	7,097	301	4.2
	千人	千人	千人	%
旅客数	120,297	106,689	13,607	12.8
定期外	55,108	44,788	10,319	23.0
定期	65,188	61,900	3,288	5.3

旅客収入の推移（百万円）



運輸成績 京阪電気鉄道

旅客数 対2019年比



※改札通過人員を使用（実績は統計上の旅客数）

セグメント情報（不動産業）

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	56,951	62,652	△5,700	△9.1%
不動産事業	48,087	55,391	△7,303	△13.2%
不動産販売業	32,114	40,704	△8,589	△21.1%
不動産賃貸業	13,773	12,817	955	7.5%
その他	2,199	1,869	330	17.7%
建設事業	12,275	10,978	1,296	11.8%
消去	△3,412	△3,717	305	–
営業利益	9,641	10,400	△759	△7.3%
不動産事業	9,739	11,344	△1,605	△14.1%
不動産販売業	2,979	5,263	△2,284	△43.4%
不動産賃貸業	6,508	5,873	634	10.8%
その他	252	207	44	21.6%
建設事業	△3	△52	49	–
消去	△95	△891	796	–

（主な増減要因）

- 不動産販売業は、「ファインレジデンス新百合ヶ丘」や「ザ・ファインタワー大手前」などマンション販売の増加はあるものの、前年同期の開発案件販売の反動が大きく、減収・減益。
- 不動産賃貸業は、不動産ファンド収入の増加などにより、増収・増益。

セグメント情報（流通業）

（単位：百万円）

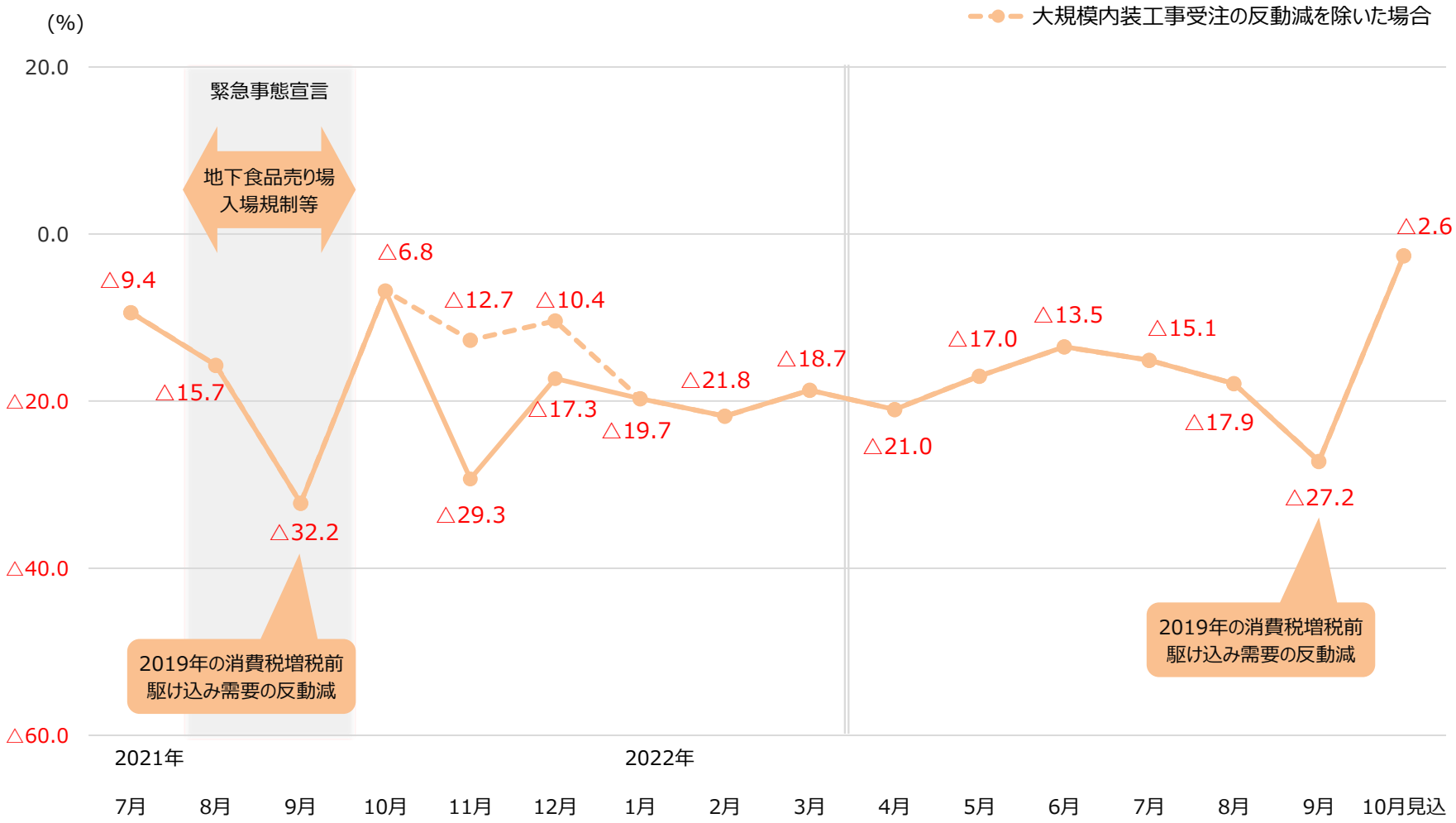
	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	24,446	25,893	△1,446	△5.6%
百貨店業	9,300	9,200	99	1.1%
ストア業	7,388	8,724	△1,335	△15.3%
ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾓｰﾙの経営	6,281	5,820	460	7.9%
その他	2,139	2,849	△709	△24.9%
消去	△663	△702	39	–
営業利益	647	414	232	56.1%
百貨店業	△296	△363	66	–
ストア業	219	339	△119	△35.3%
ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾓｰﾙの経営	637	436	200	46.0%
その他	79	△19	99	–
消去	7	21	△13	–

（主な増減要因）

- 百貨店業やショッピングモールの経営は、緊急事態宣言が発出された前年同期の休業や時短営業の影響の反動により、増収・増益。
- ストア業は、前年同期の新型コロナウイルスの影響の反動はあるものの、京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業に伴い前年12月に閉店したフレスト香里園店の影響などにより、減収・減益。

セグメント情報（流通業）

百貨店業（京阪百貨店）　営業収益 対2019年比



※収益認識会計基準適用前の営業収益による比較

セグメント情報（レジャー・サービス業）

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	9,509	4,194	5,315	126.7%
ホテル事業	8,068	3,254	4,814	147.9%
レジャー事業	1,454	951	503	52.9%
消去	△13	△11	△2	–
営業利益	△2,734	△5,437	2,703	–
ホテル事業	△2,747	△5,173	2,425	–
レジャー事業	4	△273	277	–
消去	9	9	0	–

ホテル稼働率

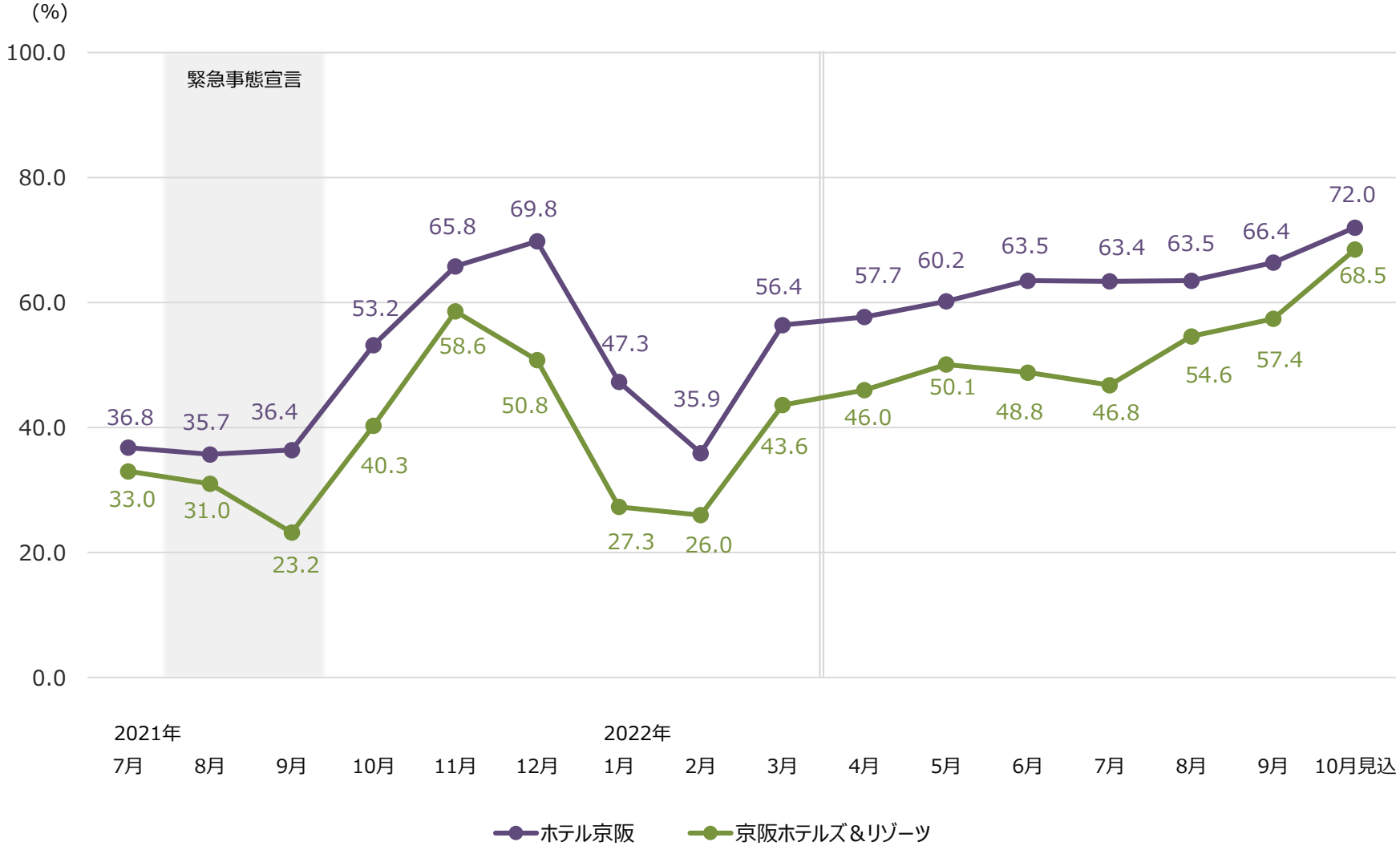
	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減
ホテル京阪	63.3%	27.9%	35.4pt
京阪ホテルズ＆リゾーツ	50.6%	20.5%	30.1pt

（主な増減要因）

- ホテル事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期の休業や営業規模縮小の影響の反動などにより、増収・増益。
- レジャー事業は、緊急事態宣言が発出された前年同期の営業規模縮小の影響の反動などにより、増収・増益。

セグメント情報（レジャー・サービス業）

ホテル事業　客室稼働率



連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 実績	増減額	増減要因
流動資産	193,811	186,794	7,016	販売土地及び建物+15,478、 現金及び預金△6,479
固定資産	550,305	550,466	△161	建物及び構築物△3,227、 機械装置及び運搬具△1,393、 投資有価証券+3,573
資産合計	744,117	737,261	6,855	
流動負債	148,184	127,477	20,706	1年内償還予定の社債+20,000
固定負債	330,232	353,907	△23,674	社債△20,000、 長期借入金△3,471
負債合計	478,416	481,384	△2,968	
純資産	265,700	255,876	9,824	利益剰余金+7,872 ※自己資本比率35.0%（+0.9pt）
負債純資産合計	744,117	737,261	6,855	
有利子負債	345,644	345,311	333	短期社債+3,000、借入金△2,666

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2023/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減額	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	903	339	564	その他流動負債の増加+12,956、 税金等調整前四半期純利益+9,938、 棚卸資産の増加△19,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,792	△8,456	3,664	固定資産の売却による収入+6,923、 固定資産の取得による支出△1,674、 投資有価証券の売却による収入△1,235
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,886	2,329	△5,215	長期借入れによる収入△20,310、 短期借入金+11,046
現金及び現金同等物の増減額	△6,548	△5,788	△760	
現金及び現金同等物の期首残高	20,322	26,554	△6,232	
現金及び現金同等物の期末残高	13,790	20,766	△6,975	

2023年3月期

業 績 予 想

業績予想の前提条件

収入の見通し（全事業共通）

- 国内の経済活動は、新型コロナウイルス感染症の影響が一定残るものの、消費マインドの改善や、感染状況に応じた外出自粛ムードの緩和等により、緩やかに回復。
- 感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令や休業要請、大規模な外出制限は行われない。
- インバウンド需要は、下期より緩やかに回復するものの、本格的な回復には至らない。

収入の見通し（各事業）

			2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想
収入の見通し (通年)	京阪電気鉄道	定期外収入	対平年度 △22% 程度	対平年度 △20% 程度
		定期収入	〃 △15% 程度	〃 △17% 程度
	バス事業	一般路線収入	〃 △12% 程度	〃 △13% 程度
	百貨店業	売上高（※）	〃 △15% 程度	〃 △15% 程度
ホテルの客室 稼働率(通年)	ホテル京阪		75% 程度	75% 程度
	京阪ﾎﾃﾙｽﾞ&ﾘｿﾞｰﾂ		55% 程度	55% 程度

（※）…「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高

連結損益計算書（業績予想）

- 流通業等において新型コロナウイルス感染症再拡大の影響を受けたことから減収となるものの、不動産業が堅調に推移していることに加え、運輸業等におけるコストの見直しを見込むほか、雇用調整助成金や各種補助金、固定資産売却にかかる利益の増加などにより、各段階の利益は当初の予想を上回る見込み。

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	増減率	2022/3 通期実績	増減額	増減率
営業収益	254,600	255,000	△400	△0.2%	258,118	△3,518	△1.4%
営業利益	17,200	16,500	700	4.2%	13,408	3,791	28.3%
経常利益	17,000	15,500	1,500	9.7%	16,485	514	3.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	16,000	12,000	4,000	33.3%	9,589	6,410	66.8%
設備投資額	36,900	38,800	△1,900	△4.9%	17,193	19,706	114.6%
減価償却費	20,200	20,500	△300	△1.5%	20,922	△722	△3.5%
ＥＢＩＴＤＡ	37,400	37,000	400	1.1%	34,331	3,068	8.9%
有利子負債	355,000	367,000	△12,000	△3.3%	345,311	9,688	2.8%
有利子負債ＥＢＩＴＤＡ倍率(倍)	9.49	9.92	△0.43	–	10.06	△0.57	–
ネット有利子負債ＥＢＩＴＤＡ倍率(倍)	8.96	9.38	△0.42	–	9.47	△0.51	–
受取利息及び配当金	490	393	97	24.7%	464	26	5.7%
支払利息	1,836	1,888	△51	△2.7%	2,007	△171	△8.5%
金融収支	△1,345	△1,494	149	–	△1,542	197	–

セグメント情報（業績予想）

（主な増減要因：対5月発表予想）

- 運輸業　：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、減収。コスト削減の取り組みなどにより、増益。
- 不動産業　：不動産販売業の堅調な推移などにより、増収・増益。
- 流通業　：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響による各施設の回復の遅れなどにより、減収。コスト削減の取り組みなどにより利益は前回予想を据え置く。
- ﾚｼﾞｬｰ･ｻｰﾋﾞｽ業　：新型コロナウイルス感染症再拡大の影響はあるものの、足元では回復傾向にあることから前回予想を据え置く。

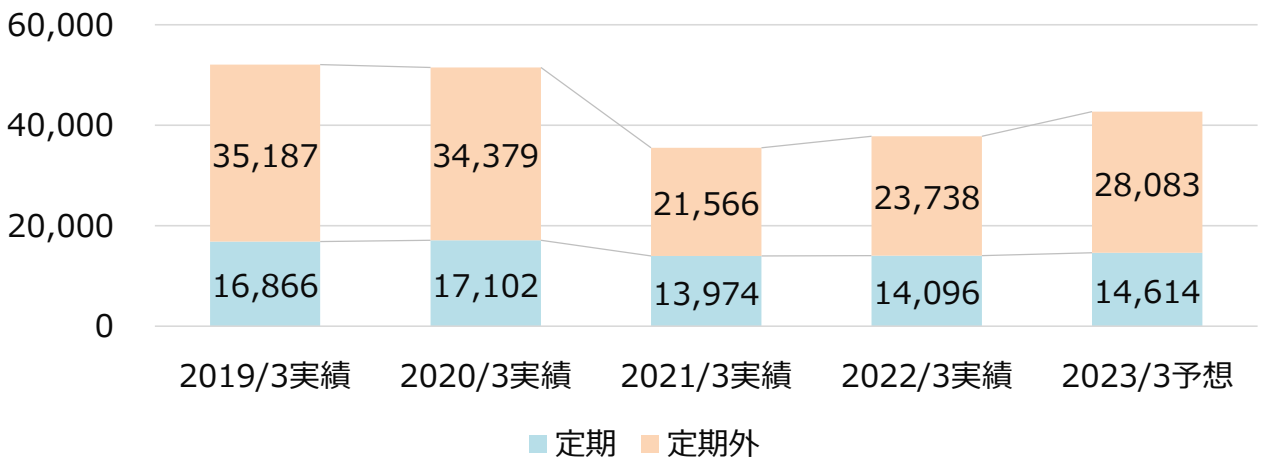
（単位：百万円）

		2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
運輸業	営業収益	79,300	79,700	△400	70,768	8,531
	営業利益	4,800	4,600	200	173	4,626
不動産業	営業収益	117,500	116,400	1,100	137,495	△19,995
	営業利益	17,000	15,800	1,200	22,593	△5,593
流通業	営業収益	51,300	52,900	△1,600	52,908	△1,608
	営業利益	2,400	2,400	–	1,776	623
ﾚｼﾞｬｰ･ｻｰﾋﾞｽ業	営業収益	20,800	20,800	–	11,529	9,270
	営業利益	△4,600	△4,600	–	△9,324	4,724
その他の事業	営業収益	3,700	3,900	△200	3,169	530
	営業利益	△1,000	△900	△100	△1,393	393
全社・消去	営業収益	△18,000	△18,700	700	△17,752	△247
	営業利益	△1,400	△800	△600	△417	△982

運輸成績（業績予想） 京阪電気鉄道

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	増減率	2022/3 通期実績	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
旅客収入	42,697	42,994	△296	△0.7	37,835	4,862	12.9
定期外	28,083	28,784	△700	△2.4	23,738	4,344	18.3
定期	14,614	14,210	404	2.8	14,096	517	3.7
	千人	千人	千人	%	千人	千人	%
旅客数	242,800	242,956	△156	△0.1	219,235	23,564	10.7
定期外	115,135	119,692	△4,557	△3.8	97,391	17,743	18.2
定期	127,665	123,264	4,401	3.6	121,843	5,821	4.8

旅客収入の推移（百万円）



セグメント別設備投資（業績予想）

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
設　備　投　資	36,900	38,800	△1,900	17,193	19,706
運　輸　業	11,500	14,000	△2,500	6,142	5,357
不　動　産　業	12,100	9,500	2,600	9,473	2,626
流　通　業	2,500	2,700	△200	826	1,673
ﾚｼﾞｬｰ･ｻｰﾋﾞｽ業	2,100	1,900	200	586	1,513
そ の 他 の 事 業	100	100	–	46	53
全 社 ・ 消 去	8,600	10,600	△2,000	118	8,481

セグメント別EBITDA（業績予想）

（単位：百万円）

	2023/3 今回発表予想	2023/3 5月発表予想	増減額	2022/3 通期実績	増減額
ＥＢＩＴＤＡ	37,400	37,000	400	34,331	3,068
運輸業	15,700	15,800	△100	12,022	3,677
不動産業	23,700	22,400	1,300	29,043	△5,343
流通業	3,500	3,600	△100	2,837	662
ﾚｼﾞｬｰ･ｻｰﾋﾞｽ業	△3,400	△3,400	－	△8,181	4,781
その他の事業	△800	△700	△100	△1,211	411
全社・消去	△1,300	△700	△600	△179	△1,120

お問い合わせ先

京阪ホールディングス株式会社

グループ管理室経理部

TEL 06-6944-2527